

檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

Vol.27

平成29年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

一言ご挨拶申し上げます。

この五月で、就任三年（任期四年）に入りました、日蓮宗静岡県中部宗務所長の中條でございます。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

静岡県中部宗務所管内の檀信徒の皆様には、常日頃菩提寺へのご丹誠、誠に有難く、厚く御礼申し上げます。併せて、駿河の法華信仰の伝統をお護りいただきますこと、深甚の敬意と謝意を表すところでございます。

駿河法華信仰の伝統の拠り所となります聖語が、左の一文です。

かえすがえす。するが（駿河）の人々みな同じ御心と申させ給い候へ。

（浄蓮房御書・三沢抄）

さて、日蓮宗の宗門運動の現況につきまして一言申し添えます。基本的に昨年度と同様でございます。

宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」は、平成二十七年より第三期開花運動に入りました。

この第三期の開花運動並びに第四期の結実運動の七年間は、日蓮大聖人ご降誕八百年に重点を置いた宗門活動を



宗務所長のあいさつ
静岡県中部宗務所長
本山 海長寺 中條 暁秀

展開することを前提に、平成二十九年度の布教方針も「合掌」組織で動く」と定められました。

昨年本紙にも記しましたが、宗門のあらゆる組織をフル稼働して、布教方針を宗門全体の隅々まで行き届らせ、一人でも多くの人たちに、日蓮宗の「合掌」を伝えていくことが大切だということでございます。檀信徒皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

道場

道場というと、ふつう剣道場とか柔道場とかを連想する。が本来の「道場」という言葉はインドの梵語ボデーマダ（bodhi-manda）菩提道場、を訳したもので、お釈迦様が成道（悟りを開かれたこと）された処を指すのだといわれる。

インド東部のパトナの南にあるガヤ（伽耶）という都市の南十キロ程の所に、お釈迦様が成道されたブツダガヤ（buddha-gaya（仏陀伽耶）という所がある。ここを菩提道場または成道場といい、ここから道場という言葉が出たという。

法華経の如来寿量品に、「一切世間ノ天人及び阿修羅ハ皆、今ノ釈迦牟尼仏、釈氏ノ宮ヲ出デテ、伽耶城ヲ去ルコト遠カラズ道場ニ坐シテ阿耨多羅三藐三菩提ヲ得タマエリト思ヒ。然ルニ善男子、我レ實に成仏シテヨリ已来、無量無辺百千萬億那由多劫ナリ」とあるが、この「伽耶城ヲ去ルコト遠カラズ道場ニ坐シテ」は真にこのこと

を指すという。

釈迦族の王子として生まれられたお釈迦様は御年十九の時、このお経の中に「釈氏ノ宮」とあるところの釈迦族の王宮を出て修行され、三十歳で、悟られたという。つまりこの所が現在のブツダガヤ（仏陀伽耶）で、道場の言葉はここより出ず、といわれるところである。つまり仏陀伽耶は菩提道場といふ、後に大精舎（The great maha bodhi）ザ・グレート・マハー・ボデー）が建てられ、高さ五十二メートルという煉瓦造りの高塔が建てられ、その中に金色の仏像が安置されている。そして西側には大きな菩提樹（ヒツパラ樹）この下で悟られたので菩提樹（ヒツパラ樹）が枝をひろげ、そしてお釈迦様が悟りを開かれた時に坐られた、金剛宝座と呼ぶ大きな赤石があり、参詣者が絶えず、まさに大道場である。

辞書によれば、道場とは釈迦が成道した地／仏道を修行する処。寺・場所／武芸を教授・練習する処／修養・訓練を団体で行う処。とある。いずれにしてもこの言葉はお釈迦様の菩提道場より出たものである。

残暑厳しき折、インドの聖地を想いつつ、この道場の言葉について記してみたい次第である。ちなみに阿耨多羅三藐三菩提 = antara-samyak-Sambodhiは梵語を音写したもので、阿耨菩提または三菩提、単に菩提と略していう。無上正遍智・仏智・正覚・道などと訳し、仏の悟りの境地・最上の智慧のこと、仏の智徳をいう。

日蓮宗 平成29年度 ラジオ番組 放送案内

日蓮宗静岡県中部宗務所提供ラジオ番組

「ひろめよう合掌のこころ」

日常生活の中で使われる仏教用語をわかり易く説く番組です

本年度もコミュニティーFMを使った中部宗務所の番組『ひろめよう合掌のこころ』を放送することとなりました。毎月第4（日曜日）にそれぞれの地域 下記の時間により全局同一のものを放送いたします。是非、ご聴取いただきますようご案内申し上げます。

毎月第4（日曜日）放送

インターネット聴取
インターネットラジオから
http://www.fmhi.co.jp
（「FM-Hi!」ホームページ）
午前9:50～10:00

御殿場地域
「富士山GOGOエフエム」86.3MHz
午前9:50～10:00

※7月より 富士・富士宮
「ラジオエフ」84.4MHz
午前7:50～8:00

清水地域
「マリナル」76.3MHz
午前9:15～9:25

沼津・長泉
「コーストFM」76.7MHz
午前9:30～9:40

静岡・焼津地域
「FM-Hi!」76.9MHz
午前9:50～10:00

島田・藤枝地域
「G-sky」76.5MHz
午前10:00～10:10

静岡県中部布教師会提供

月例講話
毎月第二木曜日開催
（※七月は第三、八月は第四に変更）
14:00～15:30頃 参加無料
会場：静岡県中部宗務所
お問い合わせ
静岡県中部宗務所

日蓮宗静岡県中部宗務所
開所日：月・木・金 10:00～16:00
〒416-0901 静岡県富士市岩本 2184-1 実相寺内
TEL.0545-64-6668 FAX.0545-66-4007
http://myouhou.com/

富士山南西麓日蓮宗寺院提供
『らじおのおてら』放送中
富士・富士宮地域
富士コミュニティーFM 84.4MHz
「Radio-f」
第1, 第3水曜日 16:20～
内容は仏教を伝える番組ですが、『ひろめよう合掌のこころ』とは異なります。

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで
平成27年度より宗門運動は第3期開花活動に入りました

管区テーマ
『ひろめよう合掌の心』

日蓮聖人 降誕八〇〇年

平成二十九年 於/静岡市清水区 清水テルサ

静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会



平成二十九年六月八日檀信徒協議会（掛川洋一会长）総会が、静岡市清水区の清水テルサで開催され、管内寺院代表の檀信徒約百人が参加した。慎重審議がなされた総会ののち、全国

檀信徒協議会会長で大本山池上本門寺檀家総代である池上幸保氏が「檀信徒協議会の果たす役割」と題した講演を行った。

池上氏は「家に仏壇があること」と「幸せ」には関係があることを示し、信仰の継承の重要性を説いた。そして「目に見えないものを信じる、ということ」が、安穩な社会の実現には「必要」であるとし、その実現のために「遠くにおいても菩提寺に手を合わせる」ことができるような、『第二菩提寺』のような仕組みをつくること「息子や孫にお守りや数珠を持たせること」「お寺の行事になかなか参加できない現役世代に、お寺の案内を届けること」の三点を提言した。

また日蓮宗宗徒としての自覚を高めてもらうために、檀信徒に「日蓮宗新聞の活用」「冊子『合掌』の活用」「『あんのん基金』

の周知」が有効であるとし、「お題目のイメージを変えていけないといけない」と説いた。



身延山大学公開講座

日時/11月13日(月)
午後2時から
会場/富士市交流プラザ

一食一元アシスト募金・写経継続中
ご協力お願い申し上げます。

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	区
横山	掛川	杉山	恵比	野村	稲葉	遠藤	市川	影山	鈴木	後藤	代表者氏名
武	洋一	一夫	澤靖	晏弘	英二	藤勝	仁	山精	木義	藤衆	菩提寺
蓮性寺	宗長寺	建徳寺	理源寺	円恵寺	興徳寺	己	本秀寺	一	和	雄	役
	会		副会長	寺	監	西之坊	副会長	実相寺	浄光寺	栄昌寺	職
	長				査	副会長		副会長	寺	寺	

平成二十九年 檀信徒協議会役員名簿 (敬称略)

講話

宗祖降誕八〇〇年の迎え方〜本物を伝える〜

降誕八〇〇年企画委員長

塚本 智秀

富士宮市圓恵寺



宗祖日蓮聖人は、承応元年(一二二二)二月十六日房州小湊(現在の千葉県鴨川市)にご誕生されました。数えて、平成三十三年には星霜八〇〇年という節目を迎えます。

【降誕の理解】

「降誕(こうたん)」とは、宗祖がこの世に御誕生されたという事実です。すなわち宗祖の誕生を尊き縁として、私たちは今日只今もお題目をお唱えできるといふ日々を蒙っているわけであり

私たちが宗門の教導(住職やその他)は、常々布教の現場において「本化上行の御再来(ごさいらい)たる宗祖日蓮大聖人」と申し上げます。これは、お釈迦さまが末法の法華経弘通を本化地涌の菩薩衆の上首である上行菩薩に命じられた。そして宗祖は、自身こそが上行菩薩の自覚を得たりと、艱難辛苦のご生涯を法華経になぞられたのであります。故に本化上行高祖日蓮大聖人とお呼びする由縁であります。

【宗祖に還る】

翻って「再来」とは何を意味するか。もう一度生まれ変わることに、蘇りなどが挙げられます。しかし、此度の「再来」に関しては、過去にあった状況に再び戻るこ

と。言い換えれば、私たち自身が再びその時と同じ状況に戻る、我々自身が還るということと受け留められてよろしいかと存じます。

【駿河地域】

私どものこの静岡県中部駿河は、宗祖身延在山九年間多くのお弟子、ご信者を輩出されました。宗祖膝下六老僧の日興上人、日持上人、日頂上人はじめ、興津浄蓮房法師、富士岩本日源上人、富士加島の高橋入道、そして有力のご信者には、富士宮上野の南条家一門の方々、西山の大内氏、同じく窪尼、松野の領主松野六郎左衛門他多くのご信者、殊に鎌倉幕府得宗の領地を廻る言いがかりから法華信徒への弾圧、「熱原法難」の神四郎兄弟等々。

宗祖が残された、著述や御返事(便り)には、この駿河の人々が圧倒的に多く、この方たちこそが身延の日蓮聖人を支えられてきたということも史実であり、我々の自負するところでもあります。時を経て、現在本宗において、この静岡県中部の寺院数は一八〇ヶ寺を数え、教師数においても二八〇人を超える宗



門の中でもトップクラスです。したがって、日蓮聖人がこのするがの人々を、駿河の土地柄を如何に大事にされていたかを示すことば(一節)を紹介いたします。

「返す返すするがの人々
同じ御心と申させ給え候」

【本物を次の世代に!】
静岡県中部管内であるこの地駿河は、宗祖の法華経流布、お題目宣布の拠り所です。繰り返します。此処は、駿河法華嫡流之殿堂であります。

どうか、私たちは法華経を子孫受け持ち、宗祖が、ご先祖が私たちが残したお題目(本物)をお唱えすることで宗祖降誕の報恩といたしましょう。